技藝抄 叢集 十二

伊地知文庫
文庫20
360
14

文庫20
360
14

拾葉集卷第十一

目録

一六〇法　河佛

庭の〻〻　或曰乳母文　同

権大納言為家卿六七日の願文　同

いきしの記　同

隣女集序　藤原雅有

野々宮の妙見序　源有房

源氏海義序　源具顕

同

同

扶桑拾葉集巻第十二

参議従三位兼行左近衛權中將源朝臣光圀編集

水戸藩

阿佛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かうしいと心をくて・この浦をとはりしをなみ
も・見えつるをみかわすれぬも・人わすれしかの
袖やぬれ・ゆくすえをたのもして

さはらぬ人をうらみはてしよ
かうしはせゆる水ぐき法の光

思ひの人に袖をかのみ
ちはしをまに・たと
しにしを思みも・ちかうもあらぬ者にあらぬ
つさせ長夜のしらちもそ・行あらこえんう
かりしと・あくいしらぬかみこのみしをうあ
あり月ものかぬ・まくらをたうのしをし・
あ一夜のいのちをうるんらして・あもしいのよをた

わすれかの神ほの・いとかちかはりて・君や
ちをしをいわすれぬかみも・思ひかあ共を
人よて生ものいかぬ・かあもり・美のんちゐん
しき・のれとなかふしもえをうこ・月をあ
ちをいはをあるを法あ・ちをそをはよりし・
をのかのをのをあをも・ゆををあもををを
かのを・ひしよあふ・ゆををあもををを
ふらすを・ひをあををあをよ法ふる
ふる法思いかあをを・をををををををを
少しを・ゆをしをを法のかを・かのをふをを
かをて・ひををあるひをを・しをををを法

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わらやもとおりとゝまる。かくてしも年くれかゝるに心のぬ
しなるべう。うしなはしまゝにまゝはゝそはゝるまで。まゝはゝそはゝる
河のうへをながれうゝみのうへにうきしまゝにながるゝものなれば
うゝとそこに笑て。老のいたきをさとし。この河の水さ
きはゝるかぜ。うゝはゝるまゝに。ながるゝものはうゝこゝ
いとおもしろきなかしと。いうはるかんとゝはゝに殺
ふるまゝにみゝこゝにかゝるかゝみをゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ
かうめ。ゝゝゝ夜をゝ殺をゝしとのみをとゝつゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

いそぎのわらはをんなとすると・人のおとゝらんことの・ふかし
くもりそらにてきぬと・やをもはくもりたるこゝろ
もしと・ふるいきたるあめと・みちをいとこゝろをそて・
さらぬそらにはやうかのことと・ゆまるかしこう
ちきつ人にはかりしれぬ・おとしわるくこゝろの
まはしくくしくちゆ・すもをこゝろ
かをと・たゝれもをちこのわほうなかぬ・ほと
うれしかれと・すこかるをいわをかをしかな
と又ゝをこゝろんをのうしたるものうし・きてそも
又をはうんをしかをしたるからををは
かるをはをもと・うちはをとはもかしきを

ちをもをも・うちのををとかをかをはのをを
をん・はれををををかをを・はのをはををを
をををををを・をををををををををををを
をををををを・をををををををををををを
れと・ををををををををををををををを

をををををををををををををををををを
をををををををををををををををををを

をををををををををををををををををを
をををををををををををををををををを
をををををををををををををををををを
をををををををををををををををををを

思ひ出るまゝに、いとゝ哀なる日ゝを経つゝ、さ
うるゝ事もかうらうと、物しの哀らみ、花ゆゑ
ゆゑ、ゆくゝるゝ、この頃さへ、雪ふり、うし
ろめたく、関屋ちかくゝ、めらゝ、とゝいめる、せゝ
のゝ、うゝ、ゝぬ、行とゝ、うゝ、かゝ、とゝ、
みゝ、ゝ、ゝ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ん[illegible]ま[illegible]ん[illegible]女房のきみ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]
[illegible]
[illegible]

いまの武さま・三条殿さまと
らちとわかせられまして・又さる人にあてて
つきをかるとて沒し給ひ
まして・ちかやうの人びと・きいたしゆきつゝ
ゆくへ・あらしのみとりてゆんらめまも
やうにいらめを・人のまわにうにうに・さるとしうゆ
らとうに・ゆるまう・ゆるまを・はるくんとえんて
れわをうしらし・とちなにへゆむいへて・をのこな
むるゆるにいかうふしかへて・ゆをゆをゆき半ゆて
ゆらゆゆ・ゆくいゆゆはうて・はゆはうちをを
きゆゆゆゆて・又さへさをまうらゆんゆ・ゆまを

りよゆをとく・うとゆ野の宮のあうこ繁義の御ゆの
河のゆ・ゆをの御ゆまはをまう・御ゆのゆをとを
ゆしつうに・さうゆゆうゆゆゆにうゆゆ
つゝ・ゆうのうをゆし・ゆうゆゆうゆゆゆ
をくゆ・ゆをのゆうちうゆゆうゆ・ゆうゆ
ゆいうゆうゆのをゆゆ半ゆを・ゆ
うを業をうゆゆをゆまうゆゆ・ゆをまうゆ
ゆをうゆゆ・ゆうゆゆゆゆゆ・ゆをゆ
ゆゆうゆうゆゆゆゆゆゆゆ・ゆをゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ・ゆをゆ
ゆをゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ・ゆをゆ
ゆをゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ・ゆをゆ

き・あはのすけよりあはとうかの（あんぎ）をとり・かはらけ
しとくとくとりのこしのるをはかりて・ちゝ
まをのうちにをんよりはしめて・はゝのことをもて
のいとせとをくにかはをもはるをうに
をとりのこかくし・世をうしにからうをてゝ新（ぶ）をとゝ
まのいをくんよりはせかとゝ（て）・ちゝのかはをもの
をつゝあはぬ世のをい・あのみし・はしうしてゝ者葉
ちゝりうし牛の・をのゝ世をみはいわし・のちい毒をゝ
あつこまし・ゝををとをまをとをて・をゝ世をはをくつ
うしをゝの見ゝてゝうを世をゝ・世をうしにをゝをん
をし思をか・ゝををを遠をゝの相をとゝにをゝ者いをあ

者ををゝ・をつゝ相ををゝ・相をゝ世ををゝ・
又二葉ゝう思いをゝ見をまつををゝ・
者のををにをかをををゝ・をゝををゝ・
をうんをい・をたををのをゝ相をを・を
しにの世者をゝ・者の世相をの
見をんを・をををゝ人あををゝ・
をゝに者をゝ・をゝ世をを
のをかををを・者の世者をを・者をを
をしけの者の世者をを相・をを
かる者・者しををかいを者・二をを二をを者は

出家遁世して、人の事を尺にあまるまで猶
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ら毎にうちて・とくに月日をおしむべきなり・其の七日は
かり・まこと一時のあそびとのみうしなひしかども・雨やかうり
ぶんにもやかりまさりて・つくりと大きなるとのみ
うたがへども・かくまでつくしたるかしこ
むかしのことをとくとくとあはせかんがへ
うたがはしく・ふしぎなりとおもひ・ひそかに
この山のふもとにすむ人・うまれて八十年にもなれども・二
度にてやあるらんと・時に安代のうみたるものいな
てまたく・あるべきにあらず・安代の
摂津国にまれなるべし・かの世にもかかる事とのみ
かたりあへりしとぞ・

くまでつくし・法いかなる二のしるしのあるべき・世のうれし
ゆうるものとをもつてみるべし・ゆめゆめかくのごとくなれば
一切の法花の功力をもつて十餘部・ゆめゆめいのちをかへりみず
のごとくにあてし・金剛をこそ
ちからをいたすべきなり・とくにみたるべきは・法華
ばかりをこそ・ひとへに・ひるまわすべ
かりけれ・かくまでもしるしをかうむる・ゆゑ
うしてくまでのうたがはしかりし・おろかなるこころの
ゆめのあるべきか・かくのごとくにうたがはしかりし
ものをもつて・ひとへに・古人をもて
なしきん・かをのうたがはしきをもつて
あるべきか・ゆめゆめ・かくのごとくにはあるべ
からず・ゆめゆめ・

の庵のいとゆたかに詠まれて、哥のみちばかりをば
たゞしく学ばんとこゝろざしたまへるなり。三とせ
ばかりみとせばかりの程にかの僧都世をのがれ
ぬと聞きてかの僧都のもとにまかりて、世をのがれ
いとい、本れまの月のくもりもなく立ち出
たるみ、雲と雪とに隔てられたるを、清涼殿に金
の御ぶすまの御障子の絵にかきたるを、胡笳の
拍子にいまのわかれぬゆゑと吹きたるこゝろ
ばへ、花のたちばなのかをりとを
思ひ出でたるこゝろばへのみ、あはれにたのもしく
奥ゆかしくなりぬるこゝろ、必ずまことの
とはをしらんとこゝろざしたまひ、願はくは毎
月の庵をあらけてゆるす夜もなきこゝろばへ
みとこゝろばかりなるべきこゝろばへ、
つゆしもの消えわたるかの山のこゝろ
の奥をこそ、唯流れにまかせたるこゝろ
うるはしくもあるかな。法の、ことばとはつゆ
きしやうせんと、ぜんもあり者なりやとて、
月の光をあらけてゆるすこゝろばへの一部乃と
うるはしくもあるかな。法花経一部・無量義経、
観普賢経四経、阿弥陀経一部、合して五部
をとりやうせんもんして、ぜんぜんくとゝとして、入道大納言
のもとにまかりて、ぜんぜんの奥をこそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
神さまの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるかなるかしこき御世
うしみとしたのすがたきて
ゆらゆらかなる色こうせし濃あり
ひとうしめぬ、ひのとをきしを
この[illegible]をいと初めて
みし・むしつの人なりせ
あれぬ・大人のうしろ
られかいかうに
はるをいきて
いとをかしの
二書つきて・相ら姉なるかて

はくをせきかけるめを惠しうら
みちとくしうやう毎ろこ年
うをかくきし・山ちと結後の、ひのかつきはは
めらしいそわらめ学・学ん学ん学と思へ
ちと・この[illegible]
すきみのみかうい
ゆゆしとめちうる
ちをいみかうこ・源乃
まれらたちまち
うち山人らい光
まもいとてあ

きしやしとて如何はせ
ん世はせんとうしたりける旅宿に
うしみたのいと親の面もなき
女子のいのちをうしなひ、さて此後ちかとの神の
如院もいかなる御しるべ、院の御めの言葉にまかせ
うめをよすて、ゆくへいとゆうもとしたうまて、和歌
おもひをしたし、高野御ひこのひしきもかぬるもとて
つゆのうきよ、侍従、大夫のとの半しらみ和とに面をしたし
も、こゆるうるはしつきをくれくるみ
君とうきをいのを見たまへめ者
つうきうるおそうしこ事なれ

空に面ふと、西の面のうと西やるみいをいのうしふ於て、
奇のうの面のうみと

おこしいとをつうきめい物のうをはい
おもものしうふしーやゆをおそうこと
をものう、三月のこをもの雪のうなかかつをめし、
うのふいとおこうゆうふと、和やの方河ふい、河ふしみ
おもをゆうをおかふ、方のみ知らはくても
いうをて、つふかくゆうすて、ゆをうをうとを形
ら学し車をうゆうゆ、学中をめをうゆうれをを於る
かをを

うをの於命と方めゆ面へのふし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うしせの夏やうめの井はれる
をかやま
十八日みの國せきの夏川わたるかとにまつかとに清
らす安
我たしら雲なほうしめなすて
わたしの国やせたの夏川
物しの国やのうしいきしかしらうら
望まわ物の物しこの物の
内ものしいうもとあしん
国をうしらしたしの清の赤らんなしたしの物の
道しほとのしてうしらわ
かみかなあむの物やとうあ

十九日又きしなしたしうしれ
のうしの物やうの物祖のみらいしわ
のしなしの西の物わしなしたしの清
ものしの物の物しらしの物
ものしの物の物しの物
ものしの物の物しの物
ものしの物の物しの物

[illegible]

[illegible]

[illegible]

須磨の浦にしばらくゐ給ひしを考へ合はせて

須磨の浦なる海士の世の中を

何をたのしみにすごすらんと

をみなへしのわすれがたきを・いつとなく

なつかしう・はるばる河をわたり給ひ

きやうにはまとゐのさはりとし

わすれがたうおもほえ給ふ

二月の山とをてしりを・山と野とにはるかにぬ

はるかにと二月の山はなにをかをて

なとすると思へる歌のうつりゝ

八橋よりゆきなんとて海・たちのみはけしきにぬ

ゐたりしに・ものをあはれとおもひ給ふ八橋を

なれもをわすれぬるうめ

丈一日八ちとゝいふ所にいたりぬ・伊勢にたちぬる山

をとをたかくたちて・ものをあはれとおもひ給ふ

とみちのくにはいとはるかなる山

なりけりとて・風はげしくて

ゆきもとて・河をたちのぼりて

思ふ君ちの山と文

時雨にをとをもるあしまをそ八又

をみちのかりをかくるまを

武蔵野をあはれとおもひ給ふ

[illegible]

[illegible]

山のすそ野をあるき[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとゝ面白く花を見なしつゝ
廿四日の夕方なりてきやの中山を越ぬ
此所は海にして道はいとせまし
こゝあるのち物さびしき所なり
また小うちをくのうちにあり物
所なり

うゑ[illegible]物もまばらの山もみな
まつの樹なりきの中也
河はなわさてうふし月にはゆくにしたがひ
雲のうちやのかやもあらぬ
こゝやこなたはきとこの日

河をこゆるとき

わたらいやをきて東海道
河をはうつい紀の川のあり
廿音ふくに[illegible]大井川と云河をわたる水
いとはやくしてわたりがたし
きのやはやくるる也水のいとまじわるを
うる

わたしはかゝみ[illegible]大井川
ほとせの石のうへをとをる
宇津の山越をわたりて
しりのいもの・黄なも人とかの

[illegible]

[illegible]

わうこの方
[illegible]
[illegible]
[illegible]山
[illegible]
[illegible]の浦
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

きりぬ。浦人の去れをもとめ、ちかくなる樵、
ゆくへもしらぬ白いかなれと、夜の四ちをなまらせ、
いつきる人のうとくもいてらす、夜すがら風をいた
て、浪も枕のうへをもちらしつ

かりそめの命河のやうに清見がせ
あし鳴のみかの原の夜の福引めせ

ものの心をうれしくもあはれ、むしろ引の袖をも
引かさねて、いとまるみかうらをみて、所
ちがひのあまのまをいそぐ、海人乃家の
あををくもりえて、しほをとゆかうあわとと
ちをもて、ゆくさきこゆる人へ

たゆまるいうしをそうの富士のゆき
をもつのすそのこなるなる年
古今の席のこと葉まて和しわ
ゆけの世の物をのらう百二のこと
せうきへもれしやもなりけん
らうそくの橋とはくらえ
ものの世をつまたかりかし
らういかなみのうへと玉ゆ
みめものうた

六七日、四季はるれしのうちの
さいし、かをもはれし十五せをわすれぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むしのこゑのみしかれしせもせ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

返し

おもしろ
おもしろ
おもしろ
おもしろ

返し

古郷を　別れ
ゆきかへり　ゆきかへり

返し

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中〳〵神なれば。のきて我

こゝ人と。なんうんなんなんとゝ。なんなんなら。

きゝ年ゝもと。ねこいはゝ。はゝきまら

ゝもいねう。ほゝるゝ。ら。言て。春ゝ。みゝ。

みゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まねる事二もいまのぬ・ぬやうに書ふしをもて白
ゆらめかす・三もいるのこと（こゝのつをとれかわて・佛
の御まへにすてゝ・ふをきうやうにかんじて・その
書ぶりやのちのかわらもわたくしに・あこがれながら
ひるしと・かゝる事をもかの方に書ふしをもて
其の梅本彼方の御とのゝ・ものゝ・ものゝ
かとのわをさし・ひとにもつかせの書ぶりを
ゆめまていうけうめくをかかせて
こと清ゝみ・ぬのかしはやくなるも
もしふみまゝ・ゆゝ・ものしなし
と笑ひ・おとゝ・ものとてこゝろをこゝろ

前ゝ・ものしを・松尋の尾ゝ・ものとゝ
ゆうとゝ・ものゝ・ものゝ・ものゝ
御ゝ・ものゝ・ものゝ・ものゝ
ものゝ・ものゝ・ものゝ・ものゝ
たゝ・ものゝ・ものゝ・ものゝ
御ゝ・ものゝ・ものゝ・ものゝ・花のゝ・ものゝ
ものゝ・ものゝ・ものゝ・ものゝ・又ものゝ・ものゝ御ゝ
ものゝ・ものゝ・ものゝ・ものゝ
見ゝ世をかはゝ・ものゝ・ものゝ書ゝ
はるゝ・夏ゝ・ものゝ・ものゝ・ものゝ
夏ゝ・ものゝ・ものゝ・ものゝ
いまやまゝ・ものゝ・ものゝ・ものゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の中納言[illegible]
年毎[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

おうかう[illegible]

いつまでの[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆたかなる（面とうの去り雲）

又おなじ面白いうの面白きうの面白

ものとて

ものとて

おなじ面白きうの面白きうの面白

ものとて

おなじ面白きうの面白きうの面白

ものとて

おなじ面白きうの面白きうの面白

[illegible]

まこと權中納言の君、[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

東路の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

少くてし
ちかのしるる
そうそや
歌とく
谷川は
みかみし
いとのこと
わいとる
そこを
ちきりし
むめの花

世はまことと
とりてあれ
世もつくと
山とのの
つきなる
あつみ今
ものをいとて
山はぬ
ふるみ花て
ちるのつる
ふるての
笑いをて
ちるよりう

思へて
もとまたる
ものとも
ものとも
ものとも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

隣女集序

藤原雅有

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]・[illegible]・[illegible]・

ゑをわい・まをのおとちゝ聚は・まゝ〳〵みまゝ〳〵
けゝまゝかゝ〳〵・この集の名とせゝこゝを表り
聚ゝゝのかゝみゝ序

源有房

過ぬし法・橘麿の書写ゝまゝてゝ・おゝ・人
和ゝ〳〵ゝまゝゝあつまりゝ〳〵・寶莊厳のゝゝをゝゝ
り・性空上人の・ふゝゝゝ洞房ゝゝゝゝ出ゝ稀み
ゝゝゝ・ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ・ゝゝ僧ゝ立寄
てゝゝゝゝゝ・ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝて・ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

寶莊の中へ分入ゝゝ・彼聖人の御足駄とゝゝて・
かゝゝみゝゝゝ・是ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

出とい（へ）ども・緑のうらゝかなる
をかしと・ゆきもいまだきえぬ所々・
うゝまりもきに・寶殿をたてたる・各
〳〵ゆうしたる・ゆうなる如意輪堂まうでゝ・
見物せば・山ゝ・谷ゝ・けぢめ〳〵・天よりうみ・谷深く
わいりかゝる水・岩をあらはして・海の西まで
この前をながれこむる・絶景〳〵・かゝる所・計なく
うらゝ・ながらうのみうつくしうもいとも
おもしろき・殊勝・恭敬をなるよ・神妙なる・言葉（に）相乃
・松風の音・ゆゑ・ゆゑ・いと・清と・響・
太山の秋・なれば・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・

かゝる時〳〵・山路より・言ぬと・出ぬる
酒して・御堂の中へ・人の・ゆゑ・ゆゑ・
かんとゆゑ〳〵・正面乃・柱・ゆゑ・ゆゑ・
〳〵・ちゝ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・
見結・ゆゑ・ゆゑ・僧・ゆゑ・今・下向・ゆゑ・
ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・
ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・
ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・
通夜の・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・今夜・
尼・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・
ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・ゆゑ・

[illegible]

[illegible]

[illegible]

发途いかりくしらるかわりとして世中いかなるものの
得去といふ漁師を使ひ給へとて去る
ひらいはいかりの色さかりなるを取て一節々念仏の
数をとなへ申給へ色々往生のひらきを
ものもうしわをもて侍はとものもはかをも給へ
源氏の物語し常式部ア祈りをもて石山の観
音・其風情と去の給へきしかんとて侍り
はせ寺しまし同観音まそ拝しまきは加護かの
とへとものはいこなを思ひ侍をゆゆして侍る
ま雑使ひらいかりとかなみ給る人のいかに
ものてまたらぬる・そこのひらきの変化給ふ

疑と・くるを給へといかに
紫式部も・ひらかるを祈りをもて祈りをもて
人の祈りをみて侍る・御拝をかりしをもて
去の給をまを・まをも色ゆゆしの道よく
侍りて・いくの年侍りて侍りて・個
まくの如くにかりて・わをの御ん法かりかく
侍り・去ふあんと・そのものをおとをよ・清水
寺ふりせをきに・我世のをのみをを・六角堂い
のの夫たしのまちに申とをを・大山寺い山伽
年如る年と妙法・太神宮いりつるにしかをきを
ををかりかへ・寺侍ふいをかりかりをを・賛

蔵に雲あるとてのぐふらくいとて春日奥の南の
岸なる小の藤なみとうをせ・二階に我に後なる枝なる
さくらとなり・住吉に初めて法
まなる雲と成れば・山野に菅原のはるぬるまに成
あるいは・稲荷に初めて成れるさくらと申す
申す・祇園に成れるなるさくらと申す
をたるいとせとも我に初めて奉仕へ・熊野
聖徒者子に初めて蓮の蔵人となられみ・行基菩薩
を奥加とうせ遊ぶ申とうなる・法教大
師に我を祇の奥加と祈・弘法大師をもめられ山な
いるる事とうえ慈覚大師に初めて日月

四位の方の・慈恵僧正に井の庭な・草のむ
河と志れ・行基に初めて・あるる弘仏神
うるに権化・いるるに欲とうみ・行基のその
とうの・初らん初うるを・見て・法に思いるの記
法の事なるう・新古今日本をるして・人名和
をうるとして・行基をうるを・百首の哥とをめるを
金仏の法をめるをうの・西行を西をうをし
何事に・行基に・世の事をして・欲をの事
初めを・精をして・とるん・熊野の権現菅の
中なる・行基に学ぶ・伊勢に哥のみ・法
法・春日の月の・法なる西の山

大なるあつまりなりしかは今をを見るにつのしい
をとらけたりめれこれをむしりの友よりたりく弱
まりてきく。むしり今の世ともかりしたりはなよ
これは為兼ひとりなりく。先祖代々の風ををもしに
累葉家の儀をもつてをる事をも。ををしてを
しりあらにとのたとりたりて。彼はい和歌の
しるべ。ををたりをる歌よりたりはいをを
めり。孫ををの先とを思へたりををを。ををく
をををををしかりてやみをを。今をを光をををたる
ををを。ををををのたりやをををををををたる
ををを。彼僧のををををををををを。光彩れをを柳下ををををを

世。をれをををををををを

文弱いふと雅うして・人ふと言ひ・ふ言ひ
して人ものいみせと・風情とことめて風情は
ことめは・楽とかしいて歌ことの古風は
うして・古見とうつ引るこをみてゐん侍とと
きは・いとおかしかりつ・ゆこに我とと
こはらはうい・をのしとをきいうれ申ふ
まことをぬ〳〵ことは・ことを侍へと古
きうてい侍しと・道とをつるなりい・歌は
ものをみをかかしをかり侍・ををいまし
就道侍をみ侍
よみとかへ侍いかと・集を入侍て侍んうい

をあるをみ侍をを・世をうを侍へ申・文つ
てをし侍へをみものは侍・申入道うんむをよを
侍をめ侍・かりをこの六義観音の御をは侍
しものうて侍・をは侍をの奉
をまへとをもいい・かくゆかうにの侍へ・観音の
御をめをとにかへ侍・をりへト申て侍
のうをは申をは侍ん・をるをとををなへ

序

源氏論義序

源氏奥題

光源氏い才部ふ氏雅うして・をつ乃をしとを
ものしりをを・世中をあるへうをわを志けに物をしを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宮城野の萩の花ゆえ風のおとに
こえぬとなれと思いきりぬる
と云ひなをす
物ゝ[illegible]やうしきこと
[illegible]ても又遊夜まし[illegible]
物ゝて[illegible]
と云ひなをす
[illegible]
神[illegible]
[illegible]
[illegible]物[illegible]

[illegible]に物ゝて[illegible]
[illegible]
と云ひなをす
[illegible]
君[illegible]
[illegible]みの神[illegible]
云ひなをす
[illegible]
[illegible]海の田[illegible]
[illegible]
と云ひなをす

八海の世界・なとあて人の
ものの・物ものう・ものしるしの
ものみの・春はもしろし・木の
ものの・花はなにしほふ・河
ものの・花はなにしほふ・春
ものの・花の白い・梅の月の
きて・ことの春のものとも
ものの・はは・雲とも・花とも
きて・春は・雲とも・花とも
道とも・つぬる人とも・見て
ものの・去ものの・去ものの

さ川とものの・入をのの・山をもきて・木をとうみ・ものの
ものの・春のものの・雲井のうたに・木をとものの・花
月のものの・いるものの・春のものの・花のえんとの・木の
ものの・春のものの・花のえんとの・木の
新と見て・ものの・見ものの・見ものの・中河の水よ
泉のものの・とのものの・中河の水よ
ものの・とものの・ものの・世をものの
ものの・ものの・ものの・ものの・ものの

のうまとのうらみ・小萩の裏とうとい・雲井の夜の
うめ・のわすれとかきて・あるいみちの行原のわ
かをばいかゝ・ずとうちつけて世中とうらみ
うたるゝ・うたゝ寝にあはぬ物ゆへ・あはれとおもふ
かゝとかくまみゆ富士のよと世人さ・源氏の東西と
きゝかとしいはるゝ・いかゝ・ゝ・ゝ・ゝ
ゝ・堀川院の内時ゝ若きとてなきしゝ・又ハ
ゝは・三のゝ和藤原の雅有ゝ・源氏の物ま
かりゝ・うゝし君ゝ居ゝとゝ・みかゝ・せるゝ毎ゝ・又
夜原の康綱と云人有ゝ・あゝ・ゝ源氏ゝ
ゝ・ゝをゝ康ゝ和みゝ雅

ゝ雅有ゝ去ゝ
大殿ゝ理髪の事
巻ゝの和の事

河原大臣の例よてわゝと隨身を
事
ゝのさん日のゝとゝよゝゝ去ゝ
みを事ゝ事

ゝ人ゝと和ゝ・ゝ竹ゝゝ人
去ゝ東のゝゝ・ゝゝ
源氏と云ゝ・難義ゝ和ゝ
ゝゝ・去ゝ

[illegible]院のいらつかの百首せ[illegible]
[illegible]のまつ・世のうつりゆきあまたとしたつ・うゑ[illegible]
いまの[illegible]源氏をも[illegible]
[illegible]・つきをうゑ[illegible]
[illegible]・[illegible]
問題をうけ[illegible]
[illegible]

月[illegible]

[illegible]年　[illegible]

藤原の範茂卿・[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
筆の海の[illegible]
[illegible]
雲の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

扶桑拾葉集巻第十二終